

## 式 辞

春の陽光が天地に満ちあふれ、校庭の桜も咲き誇る新しい命の息吹を感じる季節となりました。本日ここにPTA会長 三浦恭子 様、同窓会会長 倉掛賢裕 様、豊流会会長 長田教雄 様をはじめ、多くのご来賓並びに保護者の皆様方のご臨席を賜り、大分県立大分豊府中学校第13回入学式、大分豊府高等学校第34回入学式を挙げることは、本校にとってこの上ない慶びであり、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

ただ今入学を許可しました中学校第13期120名、高等学校第34期280名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。皆さんは大分豊府で学ぶことを自ら選択し、入学試験で見事に合格を果たされました。今、皆さんの胸中にはいくばくかの不安を感じながらも、喜びと希望に満ちあふれていることと思います。今の気持ちを忘れず、日々成長していただきたいと思ひます。

入学にあたり、新入生の皆さんに二つお願いがあります。まず一つ目です。勉強や部活動において、自分で明確な目標を立て、それに向かって粘り強く努力を積み重ねてください。皆さんは先日、プロ野球選手として引退を表明したシアトル・マリナーズのイチロー選手のことを知っていると思ひます。イチロー選手は「天才ではなく、努力の天才である」と言われています。彼はプロ野球選手になるという明確な目標を小学生の頃から持ち、地道な努力を続けました。学校から帰ると毎日父親と練習するので、友達と遊べる時間が1週間に5時間程だったそうです。この頃、近所の人達からはイチロー選手がきゃしゃな体をしていたことから、「プロ野球選手にはなれないのではないか」という陰口もあったようです。高校時代の寮生活では夜中にこっそり練習していたため、寮には幽霊が出ると噂になるほどでした。プロ野球選手になってからも、球場には誰よりも早く足を運び、全体練習の前に自分の練習を納得がいくまでしたそうです。引退の記者会見でイチロー選手は「人より頑張ることなんてとてもできない。あくまで量りは自分の中にある。自分なり

にその量りを使いながら、自分の限界をちょっと超えていくということを繰り返していく。そうすると、いつの間にかこんな自分になっているんだ。」と語っています。他人と比べるのではなく、自分のやるべきことに集中し、小さな目標を一つずつ達成していくことの大切さを教えてくれています。

私は皆さんに「『努力を継続できる才能』を身につけてもらいたい」と思っています。是非小さくても一つ一つの努力を粘り強く続けてください。皆さんに発明家トーマス・エジソンの言葉を贈ります。「Genius is one percent inspiration, 99 percent perspiration.」（天才とは1%のひらめきと99%の努力である。）

二つ目のお願いです。友達との出会いを大切に、友情を深めてください。大分豊府中学校・高等学校の校歌の中に「奇（く）しき出会いに学友（とも）愛し」というフレーズがあります。「奇（く）しき出会い」とは、縁があって出会ったという意味です。「学友（とも）愛し」とは友情を深めようという意味です。皆さんの出会いは偶然ではなく、ご縁があって一緒になったクラスです。自分たちのクラスを強い絆で結んでください。人は人との関わりの中で成長していきます。出会った人達を大切に、相手のことを気遣える人になって欲しいと思います。

保護者の皆様方には、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。本日より確かにお子様をお預かりいたします。私ども教職員一同は、お子様の成長のために、全力で指導・支援を行って参ります。今後とも、大分豊府中学校・高等学校の教育に全幅の信頼をお寄せいただきますとともに、お子様のこれからの学校生活が実り多いものになりますよう、ご支援、ご協力をお願い申し上げます、式辞といたします。

平成31年4月9日  
大分県立大分豊府中学校  
大分豊府高等学校  
校長 曾根崎靖